

Japan Evangelical Theological Society

J・E・T・S・ニュース

日本福音主義神学会

発行所 〒186 国立市名保8453 2 東京基督神学校内

<総括>福音主義の歩む道

東部総務 片岡 伸光

皮切りは、イント滞在17年、宣教に従事した葛田公義師であった。異文化体験は自らの文化を覚知する最短の道である。福音と文化を相対的に、かつ実際的にとらえながら、土着的自主的な宣教へと励ます優れたオリエンテーション的発題であった。

小野静雄師は日本プロテスタント教会史の視点から、これまでの教会の歩みが表層的な日本文化とは触れていても、基層的なものとの対決または同化とはなり得ておらず、埋没するか孤立するかに終わっていると指摘された。

また宇佐神正明師は、日本人の体験する日本人そのものを陳述された。日本人は個から出発できず、「10人単位の天上から吊り下げられたモビールである」という。他方、人格的成熟がなければどうにもならないところにきている現代日本に、福音をもって切り込む好機でもあるという。

稲垣久和師は、イエ、ムラ、クニといった社会学的要素から日本主義なるものを掘り下げる方向性を示された。

服部嘉明師は旧約から、内田和彦師は新約から、それぞれ福音がいかにか文化と対立し、同化してきたか、また攻撃的でありつつ、吸収してきたか、そして新しい文化を生み出してきたかを整理して下さった。

佐布正義師は、カトリックも含めた日本における400年の宣教史と戦後40年の福音派の歩みを踏まえ、この問題の展望の土台を語られた。我々の戦いはまだ始まったばかりではないか、いろいろできることはあるではないかと。

高橋敏夫師の日本文化を吸収する形での教会コミュニティ作りや、小助川次雄師の地域祭礼との関わりの検討、葬儀、墓への取り組みはそのような一例であろう。具体的な適応への考察を促すものであった。文化を吸収し、対決し、かつ創造することの中で、福音そのものに立ち帰らされ、明確に捉え直すことになる。橋を渡しつつ対決することが、また高峰続きの連山を縦走することが福音主義の歩む道ということであろうか。

「福音と文化」研究会議を終えて

神学会理事長 丸山 忠孝

宣教の現場で直面する「文化」と取り組んだ会議は熱気にあふれ、盛会であった。福音主義神学会にとって今回のテーマが「パンドラの箱」となるか日本宣教にとっての「宝の箱」となるか、今後の取り組みを見守りたい。



今後の展開を期待しつつ

湊 晶子

国際化社会が進む中で「福音と文化」という最も今日的課題が、宗教学、歴史学、社会学、聖書学、倫理学の各分野から実に専門的に取り上げられたことは高く評価されると思う。特に若手研究者の参加と、一歩切り込んだ積極的発題に接し、20周年を間近に控えた福音主義神学会の成長を思わされ大変感謝であった。

歴史を通して、福音が文化を肯定する面と、それを否定する面が見られるが、福音と文化の関係については「福音は文化を形成するが、逆に文化が福音の本質を変形させてはならない」という原則も改めて考えさせられた。異教的日本文化の中での宣教活動において、一義的に「あれか、これか」の結論を提示することは非常に難しい。

今回の総論的成果を踏まえて、アジア宣教を視野に入れつつ、「宣教と文化」とでも題して今後各論的に発展できればと願うものである。大きな充実感をいただいて京都を離れることができるのは、ひとえに発題者の先生方と実行委員会の先生方のご努力によるものと心から感謝したい。



福音と文化を大きな視点から

日本バプテスト教会連合 高野 園昭

日頃、伝道と牧会に忙しく、それ以上の学びをしてこなかった私にとって、今回の神学的な学びが、伝道、牧会においてどんなに大切なものか知らされました。

特に、今回の「福音と文化」は異教的な文化の中にいる私たち、牧師、信徒において避けて通ることのできない興味あるテーマでした。そのテーマは社会的な面、歴史的な面、実際的な面、聖書的な面等、多方面から発表がなされましたので、多方面からこのような問題を考えることができました。

特に、旧約聖書および新約聖書における「福音と文化の衝突」を考えると、そこに福音の力強さを覚えさせられました。『福音が文化を越え、文化に隷属せず、文化的価値にも縛られない。しかし、救い主は、特定の文化に受肉した』。このような確信は、福音と文化を大きな視点から見させ、異教的な地に生きるものに大きな光を与えてくれるものと思います。



1988年度の総会と春の研究発表会

'88年度の東部の定期総会は1988年5月9日(月)お茶の水学生キリスト教会館で行なわれることになりました。福音主義神学会も創立20周年を迎え、その活動が大きく展開していくことが期待されています。また、理事の改選等も行ないます。今より、スケジュールの中に入れておいてください。

引き続き行なわれる春の研究発表会(15:00-18:00)では、久保田周先先生を関西よりお招きして、「日本の諸宗教」について講演していただく予定です。現在交渉中ですのでお祈りください。

第四回神学研究会議経過報告

東部書記 大滝 信也

11月30日(月)午後 5時から5時55分に開会礼拝が持たれた。司会は 高橋久之師、メッセージは、丸山忠孝師。テキストは、Iコリント1:18-25。5時55分から6時までオリエンテーション。6時から7時まで夕食。7時から9時まで 葛田公義師の「導入・福音と文化」と題する発題と質疑応答。

12月1日(火)午前 7時40分から8時までデボーション。メッセージは鍋谷師 8時から9時まで朝食。9時から12時まで小野静雄師の「日本キリスト教史における福音と文化」と題する発題と質疑応答、続いて宇佐神政明師の「『日本教』の吟味」と題する発題と質疑応答。12:00から1:00まで昼食。1時-1時10分まで記念撮影。その後 3時まで自由時間。3時から4時20分、稲垣久和師の「文化の母体としての他宗教の問題」と題する発題と質疑応答。4時40分から6時まで「宣教と文化の関わり」というテーマでパネルディスカッション。司会は、山口昇師。パネリストは、高橋敏夫師、有賀喜一師、小助川次雄師。6時から7時まで夕食。7時から9時、服部嘉明師の「旧約における信仰と文化」と題する発題と、内田和彦師による「新約における福音と文化」と題する発題。 9時10分から9時30分、全国の理事の顔合せ。9時30分から10時50分、東部理事の懇談会。

12月2日(水)午前 7時40分から8時までデボーション。メッセージは後藤茂光師。8時から9時まで朝食。9時から10時15分、佐布正義師の「福音と文化・方向の模索」と題する発題。10時25分から11時、全発題に関する質疑応答 11時から11時43分まで橋本昭夫師が総括。11時50分から12時 6分まで閉会礼拝。メッセージは高橋久之師。テキストはIコリント8:1-13。その後 1時まで昼食、その後解散した。得るものの多い会議だった。

